

「平成 29 年度第 5 回湘南地区地域ケア会議」開催結果

1/12（金）『コミュニティセンター湘南』2階大会議室で、平成 29 年度第 5 回湘南地区地域ケア会議を開催しました。

今回は、『湘南オレンジカフェを考える会』で作成した『湘南オレンジカフェマップ』や「認知症カフェ」に対する意見や考えについて、まちぢから協議会の代表者や湘南地区社会福祉協議会の代表者、民生委員児童委員、湘南オレンジカフェを考える会の会員やUR都市機構、茅ヶ崎市高齢福祉介護課職員に参加してもらい意見交換を致しました。

『湘南オレンジカフェを考える会』とは？

認知症になっても住み続けることができる地域を目指し、認知症カフェを開催すること、を目的として、湘南地区にある12の介護保険事業所で『認知症カフェを考える会』を平成27年に発足しました。

これまでに、会の名称をより親しみやすい『湘南オレンジカフェを考える会』へ変更し、湘南地区で開催する認知症カフェを『湘南オレンジカフェ』と愛称をつけました。

また、各事業所の活動や連絡先を載せたマップを作成したり、会のネーミングを考えたり年2回程度定期的で開催し、各事業所で出来る活動などを意見交換してまいりました。

現在、12か所中3つの事業所（リフシア柳島『柳島カフェ』、ふれあいの渚（渚カフェ）、地域包括支援センターすみれ（すみれカフェ）で実際にカフェを実施しています。

地域ケア会議の意見交換では、以下のような意見が出ました。

- ・サロンとカフェ、デイサービスの違いがよくわからない。
- ・認知症カフェとは、認知症の方だけでなく、誰でも、自由に参加できる場所だと認識を改めることができた。
- ・周知には、回覧やまちぢから協議会のホームページ、掲示板の活用などが有効。

- ・高齢者の為だけでなく、高校生や大学生などの活躍や居場所としても活用できるのではないか。
- ・「認知症カフェ」という名称だと、認知症のイメージが先行してしまうことから周知には工夫が必要。
- ・マップに写真を多く入れ字は少ない方がいい。
- ・通う方法があるのか心配。
- ・介護施設に入所してからも気軽に参加できる場として活用できると良いなど。

今回出た意見を『湘南オレンジカフェを考える会』で深め、今後の活動やカフェの開催、周知などに役立てていきたいと考えています。

湘南地区地域包括支援センターすみれ

